

2020 年度 一般入試前期日程 小論文（長文理解）
出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

AI 囲碁を解説した囲碁棋士である王銘琬氏の『棋士と AI アルファ碁から始まった未来』（岩波新書、2018 年）から、人間と AI の関係性について議論した部分を引用して、AI が台頭してきている現代社会における「人間の特性」について問いかけた。

設問 1 は、人間は AI と異なり、囲碁の「局後の検討」において、その場の空気を読んで言い方を調整する理由（敗者への配慮、「検討」後の自身に向けられる外部からの評価、自身の勝因に対する曖昧さ）を、字数制限の中での的確かつ簡潔に表現する力が試されている。

設問 2 は、人間の特性として、人間に内在する 2 つ以上の異なる欲求（安定⇨好奇心・知識欲・現状打破、囲碁・スポーツなどの勝負事⇨文学・芸術など）が存在することを指摘した上で、AI と人間のそれぞれの特性を生かした「つき合い方」について、自分の考えを具体的かつ理論的に表現する思考力や文章力があるかが問われている。

【解答の傾向】

<設問 1>

- ・ 囲碁の「局後の検討」に即さず、一般論のみ（設問 2 で解答すべき「人間の特性」など）を書いている答案が散見された。
- ・ 要約問題であるのに、独自見解を交えて書いている答案が散見された。例：「勝者は相手の方が自分より勝っている点があったとしても正直には言わない。根拠のない発言を避けることで局後においても勝者でいたいと思うからだ。」←事例についての踏み込んだ「解釈」といえるかもしれないが、要約問題の範囲を逸脱している。
- ・ 勝因の曖昧さについてのみ指摘する回答が多数存在していた。
- ・ 「局後の検討」の話題にのみに限定し、一般的になぜ人間が言い方を調整するのかまで言及できていない回答も多かった。他方、「局後の検討」における勝者の立場に言及しない回答も散見された。
- ・ 人間は矛盾する欲求を持つからとの回答も目立ったが、なぜ、矛盾する欲求を持つと言い方を調整することになるのかを説明できているものは少なかった。

<設問 2>

- ・ 「人間の特性」を、本文から漏れなく抽出して要約できている答案は少なかった。
- ・ 後半の「人間と AI とのつき合い方」については、人間と AI それぞれの特性を比較しながら解答することが必要。「機能がますます向上している AI を、労働力不足を解消するためにもさらに導入すべきだ」など、AI の利便性にのみ注目した解答は設問の条件を満たしていない。
- ・ 「AI の正直さ・正確さ、人間の『空気を読む』性格、それぞれの良さを互いに補完し合うべきだ」という意見が多数を占めたが、単なる抽象論では説得力がない。具体例も欲しい。
- ・ 「人間の特性」を生かした仕事例：心理カウンセラー・倫理教育・介護サービス・美容室・観光ガイド・生徒指導・子育て・思いやり運転・小説家など
- ・ 人間が作り出した機械あるいは道具として、それを使う人間の「責任」に言及した答案はわずかだった。また、AI による人間支配などの危険性に触れたものもあったが、人間とは別に、

二項対立的に AI が存在するわけではない。

- ・自身の考えを述べる部分では、「人間と AI の共存」や「相互に補い合う・理解し合う」、「距離をとる」といった関係が重要とする解答が多かった。

【その他 気づいた点】

○漢字ミス：誤字があると、採点者の心証はよくないので注意されたい。

目評→目標、財者→歯医者、方進→方針、矛盾→矛盾、特張→特徴、人権費→人件費、医遼→医療、脳み→悩み、後齡者→高齢者

○表記方法：主語述語のねじれや、不適切な接続語の使用が散見された。

- ・「です・ます」→「である」
- ・「と思う」→「と考えられる」
- ・とても・すごく→非常に
- ・なので→だから
- ・適度に改行すべき